新年明けましておめでとうございます。

2020年は予想だにしなかったCOVID-19の世界的な蔓延によりこれまでの社会常識が一変しました。私たちを取り巻く学術環境も大きく変わりました。2月下旬以降はすべての講演会が中止となり、第一波が落ち着きを見せた夏以降はweb形式で再開されるようになりました。国内外の学会もweb形式での開催が現在のstandardとなりました。ここでは詳細は省きますが、これには一長一短があることはみなさんもお感じになっていることと思います。

大学病院では呼吸器内科がCOVID-19診療を担当していますがマンパワーを補うため各内科から医師を派遣せざるを得ない状況となりました。当科からも5月には森博隆先生が、12月には遠藤麻美子先生が支援にあたりました。その間、血液内科は手薄となりましたが、皆さんの頑張りで県内では大学病院でしか行えない同種移植などは継続して行うことができました。また、臨床試験も中断することなく、これまで同様にglobal試験も含め複数の試験に多くの患者さんをエントリーして治療を行うことができました。新型コロナウイルスパンデミックという非常事態の中、一致団結して頑張ってくれた皆さんを大変誇らしく思いました。今後おそらく栁沼真維先生にも召集がかかることが予想されますが皆で協力して難局を乗り越えていきたいと思います。

2019年度は森博隆先生が、2020年度は遠藤麻美子先生と栁沼真維先生が入局し医局の雰囲気も華やいできました。さらに2021年度は佐藤佑紀先生と福地恒一郎先生が新たに私たちの仲間に加わります。若い先生方のさらなる飛躍に期待したいと思います。若い力が加わることで県内の血液診療の充足にも明るい兆しが見えてきました。2021年4月からは佐野隆浩先生が大田西ノ内病院に出向予定です。佐野先生は4月から半年間、国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科に国内留学し移植医療について学んできてくれました。10月に帰局後は積極的に後輩の指導に当たってくれており頼もしい限りです。4月以降も火曜日の回診には参加して移植医療への助言や後輩の指導を継続してくれる予定です。今後も若い先生方にはぜひ積極的に外の世界に飛び出して研鑽を積んできてもらいたいと思います。

さて、PfizerやAstraZenecaにより有望なCOVID-19ワクチンが開発され既に欧米各国や中国をはじめアジアの一部の地域でも接種が始まりました。とはいえ、日本では承認前ですし、全世界の人々への接種が終了する目途はたっていません。今後もまだしばらく今の状況が続くことを覚悟せねばならないと思います。一日も早くこの状況が改善し安らかな日々か戻ってくることを切に願うばかりです。それがかなうまでの間は今まで行ってきたことを愚直に継続する一方、社会的ニーズの高い研究課題を見つけそれに取り組んでいきたいと思います。

皆さん、本年もどうぞ宜しくお願いいたします。